葉面散布剤

ファイト・カル

R7・継続

1. 試験目的　効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所　大鰐町　長峰　　(2)実施農家　山本　竜史

(3)実施支店　大鰐支店　　(4)担 当 者　寺田　佳洋

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　　品　　種　京まつり

作　　型　夏秋　　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　・　5月20日　　(10a当たり 1100 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　7月1日(共選)

(6)試験構成

試験面積　6 a　(　試験区 3 a　対照区 3 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月15日	ファイト・カル	1,000	20ﾘｯﾄﾙ	6月15日	液体ハイカルック	1,000	20ﾘｯﾄﾙ
随時				随時			

3. 試験結果

(1)生育状況　　(2)収穫状況

【試験区】　良好　　【試験区】　良好

【対照区】　良好　　【対照区】　良好

(3)農家の意見

どちらも生育は良好であったが、試験区では尻腐れが少なかった。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	**4**

(2)評価の理由

施用効果　尻腐れが少ないため効果あり。

実用性　あり。

使いやすさ　同等。

(3)その他特記事項

葉面散布剤

ファイト・カル

R7・継続

1. 試験目的　効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町　柏木堰　　(2)実施農家　工藤　理絵

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　　品　　種　京まつり

作　　型　夏秋　　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　・　5月27日　　(10a当たり 1100 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　7月2日

(6)試験構成

試験面積　8 a　(　試験区 4 a　対照区 4 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月11日	ファイト・カル	1,000	20ﾘｯﾄﾙ	6月11日	バイカルティ	1,000	20ﾘｯﾄﾙ
6月22日	ファイト・カル	1,000	20ﾘｯﾄﾙ	6月22日	バイカルティ	1,000	20ﾘｯﾄﾙ
7月1日	ファイト・カル	1,000	25ﾘｯﾄﾙ	7月1日	バイカルティ	1,000	25ﾘｯﾄﾙ
7月12日	ファイト・カル	1,000	25ﾘｯﾄﾙ	7月12日	バイカルティ	1,000	25ﾘｯﾄﾙ

3. 試験結果

(1)生育状況　　(2)収穫状況

【試験区】　良好　　【試験区】　良好

【対照区】　良好　　【対照区】　良好

(3)農家の意見

対象区との差は特段感じられなかった。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

葉面散布剤

カルタス

R7・継続

1．試験目的　効果確認

2．試験内容

(1)実施場所　弘前市糠坪　　(2)実施農家　棟方　利明

(3)実施支店　弘前西支店　　(4)担 当 者　福田　静

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　　品　　種　京まつり

作　　型　半促成　　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　5月4日　　(10a当たり 1100 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　6月12日

(6)試験構成

試験面積　4 a　(　試験区 2 a　対照区 2 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6/3～	カルタス	500	100ﾘｯﾄﾙ	6/3～	液体ハイカルック	1,000	100ﾘｯﾄﾙ

3．試験結果

(1)生育状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(2)収穫状況

【試験区】　良好

【対照区】　良好

(3)農家の意見

試験区の方が2割位、尻腐果が少なかったので良かった。メリットと混用出来るため、今後使用していきたい。

4．評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	**4**

(2)評価の理由

施用効果　尻腐果が少なかった。

実用性　メリットと混用可能なため。

使いやすさ　メリットと混用可能なため。

(3)その他特記事項

葉面散布剤

カルタス

R7・継続

1. 試験目的　効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所　平川市　碇ヶ関　　(2)実施農家　山田　尚光

(3)実施支店　大鰐支店　　(4)担 当 者　寺田　佳洋

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　　品　　種　京まつり

作　　型　夏秋　　栽植密度　畦幅 50 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　・　4月30日　　(10a当たり 960 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　6月10日(個選)

(6)試験構成

試験面積　7 a　(　試験区 4 a　対照区 3 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月15日	カルタス	500	20ﾘｯﾄﾙ	5月15日	液体ハイカルック	1,000	20ﾘｯﾄﾙ
随時				随時			

3. 試験結果

(1)生育状況　　(2)収穫状況

【試験区】　普通　　【試験区】　普通

【対照区】　普通　　【対照区】　普通

(3)農家の意見

メリットとの混用ができ、作業時間が半分になるため作業簡略化ができた。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果　同等。

実用性　同等。

使いやすさ　同等。

(3)その他特記事項

葉面散布剤

LEAF ENERGY

R7・新規

1．試験目的　高温時の花落ち、尻ぐされの軽減

2．試験内容

(1)実施場所　大鰐町三ツ目内　(2)実施農家　木田　茂徳

(3)実施支店　大鰐支店　(4)担 当 者　寺田　佳洋

(5)概　　要

作 物 名　トマト　品　　種　りんか409

作　　型　夏秋　栽植密度　畦幅 60 cm　株間 35 cm

播種・定植日　定植　4月30日　(10a当たり 1700 本)

マルチ使用　有　収穫始め　6月28日

(6)試験構成

試験面積　4 a　(　試験区 2 a　対照区 2 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当	散布日	薬剤名	倍数	a当
5月28日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	1,000	100ﾘｯﾄﾙ				
6月10日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	1,000	100ﾘｯﾄﾙ				
6月25日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	1,000	100ﾘｯﾄﾙ				

3．試験結果

(1)生育状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(2)収穫状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(3)農家の意見

差は見られなかった。

4．評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	**3**

(2)評価の理由

施用効果　対照区と同等。

実用性　対照区と同等。

使いやすさ　対照区と同等。

(3)その他特記事項

葉面散布剤

ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ

R7・新規

1．試験目的　効果確認

2．試験内容

(1)実施場所　藤崎町矢沢　　(2)実施農家　石山　昭

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　松岡　巧子

(5)概　　要

作 物 名　トマト　　品　　種　麗月

作　　型　夏秋　　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 30 cm

播種・定植日　定植　5月20日　　（10a当たり 1680 本）

マルチ使用　有　　収穫始め　7月8日

(6)試験構成

試験面積　6 a　（　試験区 3 a　対照区 3 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月20日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	100	280ﾘｯﾄﾙ				
6月24日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	1,000	100ﾘｯﾄﾙ				
7月5日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	1,000	100ﾘｯﾄﾙ				
7月19日	ＬＥＡＦ　ＥＮＥＲＧＹ	1,000	100ﾘｯﾄﾙ				

3．試験結果

(1)生育状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(2)収穫状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(3)農家の意見

定植後の活着、草勢は試験区の方がよかった。７月の高温時期は、どちらも生育状況は同じであった。尻腐れの発生はどちらも多かった。

4．評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果　定植後の生育がよく効果がみられたため

実用性　葉面散布後の生育は同等であったため

使いやすさ　薬剤散布と混用できるため

(3)その他特記事項

ぶどう殺菌剤

ミギワ２０フロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　晩腐病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町　柏木堰　　(2)実施農家　工藤　忠彦

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　40 年　　栽植密度　5 m × 2.5 m 80 本/10a

開 花 日　　収穫始め　9月15日

(6)試験構成

試験面積　50 a （ 試験区 20 a 無処理区 30 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
7月10日	ミギワ20フロアブル	2,000	250リットル	7月10日	フルーツセイバー	1,500	250リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
晩腐病	無	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

試験区・対象区共に晩腐病の発生が見られた。圃場内の菌密度が相当高くなっていると思う。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

ぶどう殺菌剤

ミギワ20フロアブル

R7新規

1. 試験目的　防除効果の確認。

2. 対象病害虫　晩腐病

3. 試験内容

(1)実施場所　高屋　　(2)実施農家　齊藤　弘昭

(3)実施支店　岩木支店　　(4)担 当 者　三浦　湧太

(5)概　　要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　30 年　　栽植密度　3 m × 2.5 m 133 本/10a

開 花 日　6月15日　　収穫始め　9月19日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　対照区　10 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
7月1日	ミギワ（F）	2,000	250ﾘｯﾄﾙ	7月1日	ベネゼット（水）	1,000	250ﾘｯﾄﾙ
〃	イカズチ（WDG）	1,500	250ﾘｯﾄﾙ	〃	イカズチ（WDG）	1,500	250ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
晩腐病	無	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

今回は差はなかったが、昨年より少なく感じた。
白い跡が残っていた。（品質には問題がなかった。）

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対象区と同等のため

実用性　対象区と同等のため

使いやすさ　対象区と同等のため

(3)その他特記事項

桃殺虫剤

ダイアジノンMC

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　ウメシロカイガラムシ、モモコフキアブラムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　楢木　　(2)実施農家　神　幸人

(3)実施支店　北　　(4)担 当 者　成田　将平

(5)概　　要

作 物 名　桃　　品　　種　川中島

樹　　齢　13 年　　栽植密度　8 m × 8 m 16 本/10a

開 花 日　4月30日　　収穫始め　8月24日

(6)試験構成

試験面積　10 a　（　試験区　5 a　対照区　5 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月10日	バリダシン液剤	500	400ﾘｯﾄﾙ	6月10日	バリダシン液剤	500	400ﾘｯﾄﾙ
〃	デラン	600	400ﾘｯﾄﾙ	〃	デラン	600	400ﾘｯﾄﾙ
〃	ダイアジノンMC	1,500	400ﾘｯﾄﾙ	〃	ダイアジノン水和剤	1,000	400ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ウメシロカイガラムシ	無	無	無
モモコフキアブラムシ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

変わりなし

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

桃殺虫剤

ダイアジノンMC

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認。

2. 対象病害虫　ウメシロカイガラムシ、モモコフキアブラムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　原ケ平　　(2)実施農家　小林　範芳

(3)実施支店　弘前東支店　　(4)担 当 者　古川　賢一

(5)概　　要

作 物 名　桃　　品　　種　川中島、あかつき

樹　　齢　10 年　　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　4月28日　　収穫始め　7月27日

(6)試験構成

試験面積　10 a　（　試験区　5 a　対照区　5 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月11日	バリダシン5（液）	500	350ﾘｯﾄﾙ	6月11日	バリダシン5（液）	500	350ﾘｯﾄﾙ
〃	デラン（F）	600	350ﾘｯﾄﾙ	〃	デラン（F）	600	350ﾘｯﾄﾙ
〃	ダイアジノン（MC）	1,500	350ﾘｯﾄﾙ	〃	ダイアジノン（水）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ウメシロカイガラムシ	無	無	無
モモコフキアブラムシ	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見　問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

にんにく殺虫剤

ディアナＳＣ

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　アザミウマ類・ネギコガ

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町中野目　(2)実施農家　藤崎営農組合

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　松岡　巧子

(5)概　　要

作 物 名　にんにく　品　　種　白玉王

作　　型　　栽植密度　畦幅 160 cm　株間 15 cm

播種・定植日　定植 ・ 9月17日　（10a当たり 14800 本）

マルチ使用　有　収穫始め　6月25日

(6)試験構成

試験面積　50 a　（　試験区 30 a　対照区 20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月27日	ディアナ（SC）	2,500	250ﾘｯﾄﾙ	5月27日	ハチハチ（乳）	1,000	250ﾘｯﾄﾙ
〃	アグリマイシン（水）	1,000	250ﾘｯﾄﾙ	〃	アグリマイシン（水）	1,000	250ﾘｯﾄﾙ
〃	アミスター20（F）	2,000	250ﾘｯﾄﾙ	〃	アミスター20（F）	2,000	250ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アザミウマ類	無	無	無
ネギコガ	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見　対照区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため

実用性　対照区と同等のため

使いやすさ　対照区と同等のため

(3)その他特記事項

にんにく殺虫剤

ディアナＳＣ

R7・継続

1．試験目的　防除効果の確認

2．対象病害虫　アザミウマ類、ネギコガ

3．試験内容

(1)実施場所　弘前市大和沢　(2)実施農家　やさい育苗センター

(3)実施支店　育苗係　(4)担 当 者　原子　大輔

(5)概　　要

作 物 名　にんにく　品　　種　畑園試系

作　　型　　栽植密度　畦幅 160 cm　株間 15 cm

播種・定植日　播種　・　9月19日　（10a当たり 14800 本）

マルチ使用　有　収穫始め　6月20日

(6)試験構成

試験面積　30 a　（　試験区 15 a　対照区 15 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月28日	ディアナＳＣ	2,500	150ﾘｯﾄﾙ	5月28日	ハチハチ乳剤	1,000	150ﾘｯﾄﾙ
〃	カスミンボルドー	1,000	150ﾘｯﾄﾙ	〃	カスミンボルドー	1,000	150ﾘｯﾄﾙ
〃	テーク水和剤	600	150ﾘｯﾄﾙ	〃	テーク水和剤	600	150ﾘｯﾄﾙ

4．試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アザミウマ類	少ない	少ない	少ない
ネギコガ	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

5．評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	**4**

(2)評価の理由

散布効果　問題なし

実用性　有

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

桃殺菌剤

ＩＣジンク水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　せん孔細菌病

3. 試験内容

(1)実施場所　糠坪　(2)実施農家　河越　一之

(3)実施支店　北　(4)担 当 者　成田　将平

(5)概　　要

作 物 名　桃　品　　種　川中島

樹　　齢　10 年　栽植密度　8 m × 8 m 16 本/10a

開 花 日　4月30日　収穫始め　8月25日

(6)試験構成

試験面積　10 a （ 試験区　5 a 対照区　5 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月19日	ICジンク	1,000	300ﾘｯﾄﾙ	5月19日	アグリマイシン	1,500	300ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

今年は少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	5	4

(2)評価の理由

散布効果　あり

実用性　混用の幅が広がる

使いやすさ　葉やSSの汚れが少ない

(3)その他特記事項

桃殺菌剤

ＩＣジンク水和剤

R7・継続

1．試験目的　防除効果の確認

2．対象病害虫　せん孔細菌病

3．試験内容

(1)実施場所　弘前市小栗山　(2)実施農家　工藤　栄治

(3)実施支店　弘前東支店　(4)担 当 者　古川　賢一

(5)概　　要

作 物 名　桃　品　　種　川中島、あかつき

樹　　齢　10 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　4月29日　収穫始め　8月9日

(6)試験構成

試験面積　10 a （ 試験区 5 a 対照区 5 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月24日	ＩＣジンク（水）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ	5月24日	マイコシールド（水）	2,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	ダコニール1000（液）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ	〃	ダコニール1000（液）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	モスピラン（顆粒水溶）	4,000	350ﾘｯﾄﾙ	〃	モスピラン（顆粒水溶）	4,000	350ﾘｯﾄﾙ

4．試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
せん孔細菌病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

有

(3)農家の意見

問題なく使用できたが、薬害が出たため注意が必要。

5．評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	2	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　抗生物質の使用回数を減らせるため、実用性はある。

使いやすさ　高温時の散布に注意が必要なため。

(3)その他特記事項

薬害が発生したため、使用する際には十分注意が必要。

とうもろこし殺虫剤

グレーシア乳剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　ハダニ類

3. 試験内容

(1)実施場所　常盤野字上黒沢　(2)実施農家　加賀谷　靖彦

(3)実施支店　岩木支店　(4)担 当 者　平山　銀

(5)概　　要

作 物 名　とうもろこし　品　　種　恵味

作　　型　　栽植密度　畦幅 62 cm　株間 40.5 cm

播種・定植日　播種　5月6日　(10a当たり 2,500 本)

マルチ使用　有　収穫始め　8月1日

(6)試験構成

試験面積　100 a　(　試験区 50 a　対照区 50 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月10日	グレーシア乳剤	2,000	200ﾘｯﾄﾙ	7月10日	アファーム乳剤	2,000	200ﾘｯﾄﾙ
〃	モスピラン顆粒水	4,000	200ﾘｯﾄﾙ	〃	モスピラン顆粒水	4,000	200ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ハダニ類	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

対照区と同等、試験区でにおいが気になったが問題なく使えた

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	**3**

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等

実用性　新しい系統の農薬のため今後の基準防除に加えたい

使いやすさ　対照区と同等

(3)その他特記事項

ハダニ類の他にオオタバコガ、アワノメイガに対しても対照区と同等に効果があった

とうもろこし殺虫剤

グレーシア乳剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　ハダニ類

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市百沢字裾野　(2)実施農家　小田桐　浩治

(3)実施支店　岩木支店　(4)担 当 者　平山　銀

(5)概　　要

作 物 名　とうもろこし　品　　種　恵味

作　　型　　栽植密度　畦幅 75 cm　株間 40 cm

播種・定植日　播種　6月12日　(10a当たり 2,500 本)

マルチ使用　無　収穫始め　9月1日

(6)試験構成

試験面積　100 a　(　試験区 50 a　対照区 50 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
8月15日	グレーシア乳剤	2,000	200ﾘｯﾄﾙ	8月15日	アファーム乳剤	2,000	200ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ハダニ類	普通	少ない	少ない

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

対照区と同等

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	**3**

(2)評価の理由

散布効果　虫の発生が少なく差を実感しにくかったが、対照区と同等に効いていた

実用性　新しい系統の農薬のため今後の基準防除に加えたい

使いやすさ　対照区と同等

(3)その他特記事項

ハダニ類の他にオオタバコガ、アワノメイガに対しても対照区と同等に効果があった

葉面散布剤

トルキャップα

R7・継続

1．試験目的　効果確認

2．試験内容

(1)実施場所　藤崎町　柏木堰　　(2)実施農家　工藤　理絵

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　　品　　種　京まつり

作　　型　夏秋　　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　・　5月27日　　(10a当たり 1100 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　7月2日

(6)試験構成

試験面積　8 a　（　試験区 4 a　対照区 4 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月11日	トルキャップα	1,000	20ﾘｯﾄﾙ				
6月22日	トルキャップα	1,000	25ﾘｯﾄﾙ				
7月1日	トルキャップα	1,000	25ﾘｯﾄﾙ				
7月12日	トルキャップα	1,000	30ﾘｯﾄﾙ				

3．試験結果

(1)生育状況

【試験区】　良好

【対照区】　良好

(2)収穫状況

【試験区】　良好

【試験区】　良好

(3)農家の意見

今年は降雨も少なく特段差は感じられなかったが、散布中はいい香りがして気分よく散布できた。

4．評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果　あまり差は感じられなかったため

実用性　問題なし

使いやすさ　問題なし

(3)その他特記事項

葉面散布剤

トルキャップα

R7・継続

1．試験目的　効果確認

2．試験内容

(1)実施場所　平川市　碇ヶ関　　(2)実施農家　山田　尚光

(3)実施支店　大鰐支店　　(4)担 当 者　寺田　佳洋

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　　品　　種　京まつり

作　　型　夏秋　　栽植密度　畦幅 50 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　・　4月30日　　(10a当たり 960 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　6月10日(個選)

(6)試験構成

試験面積　4 a　(　試験区 4 a　対照区　a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
5月15日	トルキャップα	500	20ﾘｯﾄﾙ				

3．試験結果

(1)生育状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(2)収穫状況

【試験区】　普通

【対照区】　普通

(3)農家の意見

試験区、対照区での違いは感じられなかった。

4．評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	2	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果　効果の差が見られなかったため

実用性　対照区と同等。

使いやすさ　対照区と同等。

(3)その他特記事項

きゅうり殺菌剤

ケンジャフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認。

2. 対象病害虫　菌核病、灰色かび病、褐斑病、うどんこ病、つる枯病

3. 試験内容

(1)実施場所　大鰐　長峰　　(2)実施農家　原子　尚之

(3)実施支店　大鰐　　(4)担 当 者　寺田　佳洋

(5)概　　要

作 物 名　きゅうり　　品　　種　なついろ

作　　型　　栽植密度　畦幅 130 cm　株間 160 cm

播種・定植日　定植　5月25日　　(10a当たり 500 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　7月5日

(6)試験構成

試験面積　10 a　(　試験区　5 a　対照区　5 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月6日	ケンジャ（F）	1,500	20ﾘｯﾄﾙ	7月6日	アミスター20（F）	1,000	20ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
うどんこ病	無	無	無
灰色かび病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

農薬の使用回数があるため、使用できる農薬が増えるのはいいこと

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	**3**

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　ローテーション散布に有望なため

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

きゅうり殺菌剤

ケンジャ

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認。

2. 対象病害虫　菌核病、灰色かび病、褐斑病、うどんこ病、つる枯病

3. 試験内容

(1) 実施場所　弘前市　百沢　　(2) 実施農家　太田　俊逸

(3) 実施支店　岩木支店　　(4) 担 当 者　平山　銀

(5) 概　　要

作 物 名　きゅうり　　品　　種　秀林、なついろ

作　　型　　栽植密度　畦幅 200 cm　株間 170 cm

播種・定植日　定植　・　5月25日　　(10a当たり 331 本)

マルチ使用　有　　収穫始め　7月3日

(6) 試験規模

試験面積　10 a　(　試験区　3 a　対照区　7 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
7月12日	ケンジャフロアブル	1,500	15ﾘｯﾄﾙ	7月12日	アミスターオプティーフロアブル	1,000	15ﾘｯﾄﾙ
〃	アファーム乳剤	2,000	15ﾘｯﾄﾙ	〃	アファーム乳剤	2,000	15ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
うどんこ病	無	無	無
灰色かび病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

対象区と同等

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

散布効果　対照区と同等

実用性　対照区と同等

使いやすさ　対象区と同等

(3) その他特記事項

ピーマン殺虫剤

ウララDF

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　アブラムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市津賀野　(2)実施農家　小山内　正一

(3)実施支店　和徳　(4)担 当 者　泉　荘

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　品　　種　京まつり

作　　型　トンネル　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植 ・ 5月3日　(10a当たり 1100 本)

マルチ使用　有　収穫始め　6月18日

(6)試験構成

試験面積　10 a　(　試験区　5 a　対照区　5 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月28日	ウララDF	4,000	200ﾘｯﾄﾙ	6月28日	コルト顆粒水和剤	4,000	200ﾘｯﾄﾙ
〃	アミスター20（F）	2,000	200ﾘｯﾄﾙ	〃	アミスター20（F）	2,000	200ﾘｯﾄﾙ
〃	プレバソン（F）	2,000	200ﾘｯﾄﾙ	〃	プレバソン（F）	2,000	200ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区と同等でよく効いていたと思う。
アブラムシ、アザミウマの薬剤は多い方がいい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等。

実用性　対照区と同等。

使いやすさ　対照区と同等。

(3)その他特記事項

ピーマン殺虫剤

ウララDF

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　アブラムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市糠坪　(2)実施農家　棟方　利明

(3)実施支店　弘前西支店　(4)担 当 者　福田　静

(5)概　　要

作 物 名　ピーマン　品　　種　京まつり

作　　型　半促成　栽植密度　畦幅 70 cm　株間 60 cm

播種・定植日　定植　5月4日　(10a当たり 1100 本)

マルチ使用　有　収穫始め　6月12日

(6)試験構成

試験面積　4 a　(　試験区 2 a　対照区 2 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
6月22日	ウララDF	4,000	200ﾘｯﾄﾙ	6月22日	コルト顆粒水和剤	4,000	200ﾘｯﾄﾙ
〃	アミスター20（F）	2,000	200ﾘｯﾄﾙ	〃	アミスター20（F）	2,000	200ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

どちらも効いていた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等

実用性　対照区と同等

使いやすさ　対照区と同等

(3)その他特記事項

にんにく殺虫剤

ビーラム粒剤

R7・新規

1．試験目的　防除効果の確認。

2．対象病害虫　イモグサレセンチュウ

3．試験内容

(1)実施場所　弘前市清水森　(2)実施農家　相馬　清隆

(3)実施支店　弘前東支店　(4)担 当 者　富島　斗亜

(5)概　　要

作 物 名　にんにく　品　　種　白玉王

作　　型　　栽植密度　畦幅 180 cm　株間 15 cm

播種・定植日　定植　10月4日　(10a当たり 15000 本)

マルチ使用　有　収穫始め

(6)試験構成

試験面積　5 a　(　試験区 5 a　対照区　a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
9月27日	ビーラム粒剤		20kg				

4．試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
イモグサレセンチュウ	少ない		

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5．評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価			3	

(2)評価の理由

散布効果

実用性

使いやすさ　使いづらさを感じなかった。

(3)その他特記事項

空欄部分はR8年の収穫までの結果を見て記入します。

にんにく殺虫剤

ビーラム粒剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認。

2. 対象病害虫　イモグサレセンチュウ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市大和沢　(2)実施農家　やさい育苗センター

(3)実施支店　育苗係　(4)担 当 者　原子　大輔

(5)概　　要

作 物 名　にんにく　品　　種　白玉王

作　　型　　栽植密度　畦幅 160 cm　株間 15 cm

播種・定植日　播種　9月19日　(10a当たり 14800 本)

マルチ使用　有　収穫始め

(6)試験構成

試験面積　60 a　(　試験区　60 a　対照区　a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当散布量
8月29日	ビーラム粒剤		20kg				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
イモグサレセンチュウ	少ない		

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価			4	

(2)評価の理由

散布効果

実用性

使いやすさ　粒剤でまきやすい。

(3)その他特記事項

令和８年の収穫までの結果を見て空欄は記入します。

洋なし殺虫剤

オリオン水和剤40

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　シンクイムシ類、カイガラムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　折笠　　(2)実施農家　對馬　輝康

(3)実施支店　船沢　　(4)担 当 者　天内　太陽

(5)概　　要

作 物 名　洋なし　　品　　種　ラ・フランス

樹　　齢　10 年　　栽植密度　5 m × 2.5　20 本/10a

開 花 日　4月30日　　収穫始め　9月30日

(6)試験構成

試験面積　38 a　（　試験区　18 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月24日	オリオン40水和剤	1,000	400ﾘｯﾄﾙ	5月24日	ダイアジノン34水和剤	1,000	400ﾘｯﾄﾙ
〃	アスパイア水和剤	500	400ﾘｯﾄﾙ	〃	アスパイア水和剤	500	400ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
シンクイムシ類	無	無	無
カイガラムシ類	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

特に差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

なし

洋なし殺虫剤

オリオン水和剤40

R7新規

1. 試験目的　防除効果の確認。

2. 対象病害虫　モモシンクイガ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市乳井　　(2)実施農家　成田　浩憲

(3)実施支店　弘前東支店　　(4)担 当 者　古川　賢一

(5)概　　要

作 物 名　洋なし　　品　　種　ラ・フランス

樹　　齢　20 年　　栽植密度　6 m × 6 m 28 本/10a

開 花 日　4月27日　　収穫始め　10月7日

(6)試験構成

試験面積　20 a （ 試験区 10 a 対照区 10 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月3日	ジマンダイセン（水）	600	350ﾘｯﾄﾙ	6月3日	ジマンダイセン（水）	600	350ﾘｯﾄﾙ
〃	オリオン（水）40	1,000	350ﾘｯﾄﾙ	〃	ダイアジノン（水）34	1,000	350ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項